

■エルガー／序曲《南国にて（アラッシオ）》Op.50

《威風堂々》や《エニグマ変奏曲》で知られるエルガーだが、近年は《ゲロンディアスの夢》や《神の国》といったオラトリオや3つの交響曲が日本のオーケストラでも取り上げられる機会が増えてきた。しかし、今も序曲《南国にて（アラッシオ）》はあまり演奏されていない。内容の充実度から考えると、もう少し注目されても良い曲だ。

45歳の年、家族旅行でフランスのニースとイタリアのジェノバの間に位置する海岸沿いの町、アラッシオを訪れたエルガーはその美しい風景に魅せられる。またたく間に音楽が思い浮かび、あとは五線譜に書き記すだけだったと後に語っている。曲は旅人がイタリアをめぐっているかのように構成されている。序はR.シュトラウスの交響詩《ドン・ファン》の冒頭に似た鮮やかなフレーズで始まる。続いて、アラッシオの山頂にある小さな村モーリオのイメージを表すメロディが現れ、その変形が続く。弦楽器が奏でるのどかな第2主題はモーリオの田園風景を思わせる。その後、重厚な「ローマ人の主題」が全合奏で演奏され、古のローマが回想される。さらにグロッケンシュピールが入って、ヴィオラが憂いのあるメロディを奏でる。いかにも民謡風の響きがするのだが、エルガーのオリジナルだ。その後も自由に主題が展開されたあと、管楽器群が第1主題を繰り返して終わる。

白石美雪

※掲載された曲目解説の無断転載、転写、複写を禁じます。

楽器編成：フルート3（ピッコロ持ち替え1）、オーボエ2、イングリッシュホルン、クラリネット2、バスクラリネット、ファゴット2、コントラファゴット、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、スネアドラム、バスドラム、シンバル、

トライアングル、グロッケンシュピール、ハープ、弦五部

※スコア上の表記